



ヤマト繋がるプロジェクト  
2022 年度報告書

## ヤマト繋がるプロジェクトとは

### ■ 概要

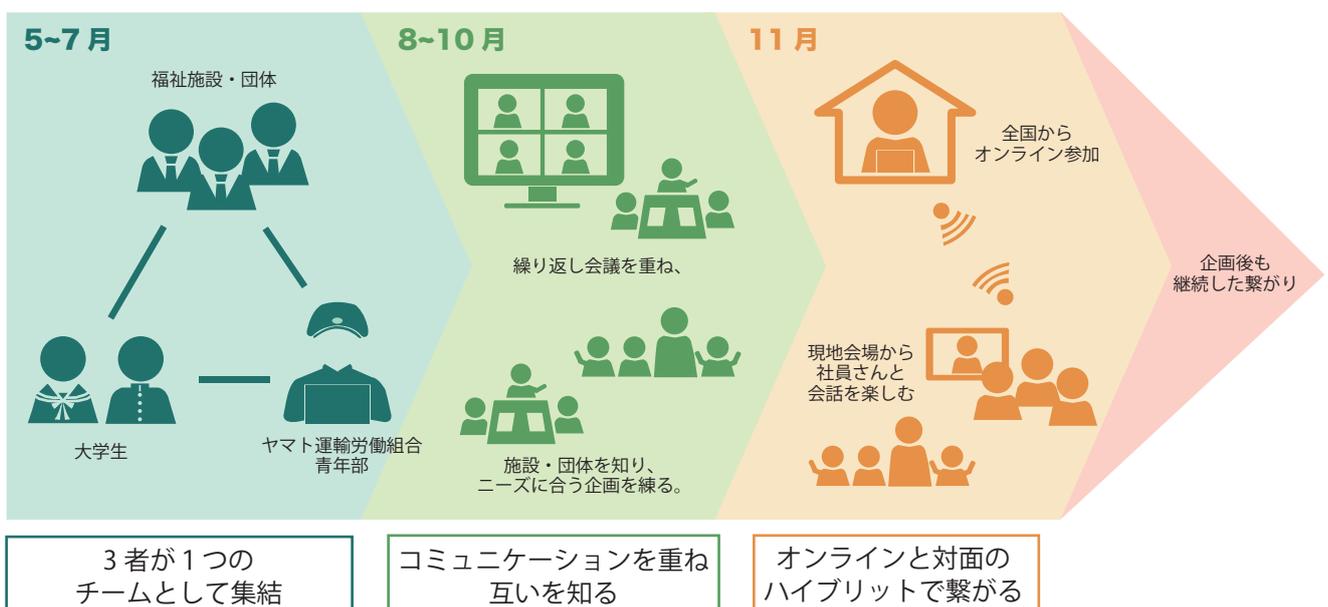
ヤマト福祉財団の助成のもと、ヤマト運輸労働組合青年部と NPO 法人アクションポート横浜の大学生と一緒に福祉のボランティアを企画・実施することで、地域や福祉に貢献するプロジェクトです。2021 年度よりスタートしました。

### ■ プロジェクトの狙い

1. 社会人と学生が繋がり、多くの気づきを得られる協働作業の場をつくること。
2. コロナ禍での新たなオンラインボランティアを作り、地域の福祉活動に貢献すること。
3. 参加者のボランティアへの関心と地域への関心を高めること。



## 企画の流れ



## 今年度の方針

### あったかい の連鎖を生み出す

企画自体やそのための話し合い、それぞれの中で生まれるコミュニケーションを通して、お互いを理解し、想いを共有する。

これらの行為の中で生まれる嬉しさや楽しさ、感動を意味する「あったかい」を、企画に関わる人同士でお互いに共有、もしくは他者にも伝えていくことを目指して、今年度は取り組みました。

#### 1. 昨年度と同様の実施形式

オンライン参加と対面参加のハイブリット型での企画を実施すること、ボランティアの参加のしやすさを実現させる

#### 2. 企画チームづくりの強化

施設・団体との関係構築、ニーズに合わせた企画づくりをヤマト社員さん含む企画チームがより深く行えるような機会を増やす

# 科学で遊ぼう！



「初めての科学実験を通して、自分だけの楽しいを見つけ、一緒に同じ時間を楽しむ」というねらいのもと、紫キャベツのアルカリ酸性実験パフォーマンスとダイラタンシー現象を利用した片栗粉スライムパフォーマンスを行いました。また、パフォーマンス時に色を変化させた紫キャベツの溶液を利用して紋様作りを行ったり洗濯糊とホウ砂、絵の具を混ぜてオリジナルスライムを作ったりして楽しみました。

企画内容：アルカリ酸性実験、片栗粉スライムパフォーマンス、紋様作り、オリジナルスライム作り

企画パートナー：横浜市中区地域訓練会チューリップ

日時：11月26日（土） 1部：13:00~13:45  
2部：14:30~15:15

会場：横浜市本牧和田地域ケアプラザ

参加人数：企画メンバー（学生3名 ヤマト社員2名）

● 団体参加者 13名

□ 当日ボランティアのヤマト社員 14名

● 当日ボランティアの学生 6名

オンライン 対面



オリジナルスライム作り ▲

紋様作り ▼



ヤマト運輸労働組合  
関根さん

zoomでの打合せから当日の設営・運営に至るまで、学生の皆さんがすごく動いてくれ、大変助かりました。また、子どもたちとの交流を経て忘れかけていた優しい気持ち、楽しむ気持ちを思い出しました。なにより皆の楽しむ姿が見られて安心しました。

## 企画の工夫ポイント

科学実験を子どもたちにより楽しんでもらうために、博士というキャラを登場させました。学生ボランティア・ヤマト社員さんには博士の助手という程で子どもたちに接してもらい、発表終了後には子どもたちに対しサイエンスマスターの賞状を手渡すなど、科学実験特有の雰囲気味わえるような空間を作りました。



## <パートナー団体のご紹介> 横浜市中区地域訓練会チューリップ（横浜市中区）

発達がゆっくりな子どもたち（未就学児～高校生）を対象に、音楽や絵画、室内遊び等の定期的な活動を通して挨拶やお礼などの基本的な生活に関することを練習・実践している団体。また、地域交流の場において、子どもたちの存在を知ってもらうための活動や、障がいに対する啓蒙活動も行っている。

HP：<https://tulip.grupo.jp/>



# みんなであそBoccia!



「ボッチャを通して新しい人との繋がりを意識してもらうこと」を目的に企画を行いました。現地会場で子ども達がボッチャを使ったゲームをする一方、オンラインのヤマト社員さんは、お絵描き対決に挑んだり、子どもたちの応援をしました。投げるごとに大きな歓声が上がリ、対面とオンライン共に盛り上がりました。企画の最後にはヤマト社員さんお手製のメダルを子どもたち全員に渡しました。

企画内容：ボッチャを使ったゲーム、  
ジェスチャーゲーム、お絵描き対決

企画パートナー：障害児者サークルラビッツ

日時：11月13日（日） 14:00~16:00

会場：障害者スポーツ文化センター横浜ラポール

参加人数：企画メンバー（学生5名ロヤマト社員2名）

●●団体参加者 13名

□当日ボランティアのヤマト社員 6名

●●当日ボランティアの学生 11名

オンライン □ 対面 ●●



ジェスチャーゲーム ▲

ボッチャを使ったゲーム ▼

お絵描き対決 ▼



ヤマト運輸労働組合  
松浦さん

年齢や職業、考え方が違っていても互いを知り  
意見を出し合うことによって素晴らしいアイデアを出すこ  
とができました!

ラビッツの子供たちの笑顔から企画メンバーとして  
関わられて良かった!と強く思いました。

## 企画のハイライト

PC画面越しでのハイタッチです。ヤマト社員さんと画面越しでの会話がうまくできるか心配でしたが、ラビッツのお友達の明るさと、ヤマト社員さんや学生の優しさで、お互い笑い合えるあたたかい空間をつくることができました。



## <パートナー団体のご紹介> 障害児者サークルラビッツ（横浜市港北区）

中学生以上の障がいを持つ方を対象に音楽療法・身体を動かす活動・芸術活動など幅広く活動をしている団体。  
クリスマス会など季節にちなんだイベントも開催している。



# アートで繋がろう！



「私とは一体・・・」というテーマのもと、絵の具や折り紙、紐など様々な材料を使って”自分のきもち”をアートで表現しました。会場はカプカプさんの活動場所である「カプカプ喫茶」と「カプカプ WA!」の2か所で実施しました。できた作品を対面やオンライン越しで見せあいながらお互いの想いを共有し合い、笑顔溢れる一日となりました。

企画内容：様々な材料を使ったアート作品作り

企画パートナー：都筑区子育て支援センター Popola(ポポラ)・カプカプ川和

日時：11月19日(土) 10:00~12:00

会場：カプカプ喫茶、カプカプ WA！

参加人数：企画メンバー（学生4名 ヤマト社員2名）

● 団体参加者 11名

□ 当日ボランティアのヤマト社員 15名

● 当日ボランティアの学生 9名

オンライン □ 対面 ●



完成した作品 ▲

アートをヤマト社員に紹介 ▼

筆を使って気持ちを表現 ▼



ヤマト運輸労働組合  
江口さん

zoomでの参加でしたが、現場にいるかのような楽しい時間を過ごすことができました！離れていても共に作業ができる素晴らしい企画だと思います！

## 企画のハイライト

ヤマト社員さんがカプカプメンバーの鶴見くんに「芸能人の絵を描いて！」とリクエストしたシーン。鶴見くんの得意な絵が、遠く離れたヤマト社員さんへ画面越しに伝わりアートを通じてコミュニケーションがとれていたことに一体感を感じました！



## <パートナー団体のご紹介>

### 都筑区子育て支援センター Popola(ポポラ) (横浜市都筑区)

妊娠中の方、子どもや子育て中の方、子育てに興味のある方や応援したい方など、誰もが気軽に立ち寄れる子育ての休憩所。この町で、誰もが安心して自分らしい子育てやくらしができるように、子育てに関する情報の提供や交流の場づくりを行っている。

HP: <https://popola.org/>



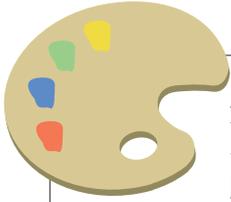
### カプカプ川和 (横浜市都筑区)

様々な障害を持つ人が【居る、居られる】生活介護事業所。一人一人の「はたらく」をみつける活動をしており、喫茶店を初めとした製菓や様々な自主製品作りをしている。

HP: <http://kapukapu.org/>



# 企画成功の鍵は **コミュニケーション** にあった！



対面とオンラインのハイブリッドでアート企画を行ったチーム3。  
学生・ヤマト社員・そしてパートナー団体であるポポラ、カプカプ川和の結束が固く、企画実施後も展示会を行うなど良好な繋がりを持続させ、「繋がるプロジェクト」を体現しています。



カプカプ喫茶でいただける  
ルーローハン



ヨガプログラム体験中



展示会に遊びに行った様子



今回はそんなチーム3の関係構築のポイントを探りたいと思います。

## ポイント1 お互いの違和感に気づいて作戦会議

学生メンバーにはボランティア未経験者も多かったこともあり、最初はなかなかコミュニケーションの面での遠慮があり、うまく思いを伝えられない部分がありました。

それは団体の皆様も同じように感じていたようで、進めていく中で小さな違和感はありましたが、オンラインベースだとなかなか難しいもの。

作戦会議を開いて、お互いの思いを共有する場を作ることで、企画づくりに向けて良いコミュニケーションが取れるようになってきました。

## ポイント2 事前事後の施設訪問

学生はカプカプ川和が運営するカフェで昼食をしたり、団体の利用者さんと共にヨガプログラムに参加をしました。

このように課題だったコミュニケーションをとっていくにつれて対面だけでなく、Slack等のチャットツールにおいても積極的にやり取りが行われるようになり、お互いの不安は無くなっていました。

## ポイント3 前日のオンライン会議

3チームある中で唯一事前準備を「学生・ヤマト社員・パートナー団体」の三者で行ったチーム3。企画当日は当日ボランティアに数名の欠席が出てしまい、各自の役割が増え、オンラインでも音響や接続不良など通信トラブルに見舞われました。

しかし、念入りの事前準備、そしてチーム間のコミュニケーションを大事にしていたからこそハプニングをチームワークでカバーすることができました。



## ヤマト社員さんから見た 「ヤマト繋がるプロジェクト」とは？



～企画チームの社員さん、当日参加の社員さん両方にこっそり聞いてみました～

ヤマト繋がるプロジェクトでは、全国から集まったヤマト運輸労働組合青年部の皆さんが、1から企画を考える社員さんと当日企画に参加する社員さんとで分かれ、プロジェクトに関わります。そんな彼らは、一体どのような想いを持ってプロジェクトに参加しているのでしょうか？

Q. 何県から参加されましたか

**24** 都道府県



北は北海道、南は鹿児島から、企画チームの社員さん6名と、当日ボランティアの社員さん35名の、計41名の方に今年度は参加していただきました。オンライン開催だから、そして何よりもヤマトだからできるネットワークです。

Q. 企画の達成度を教えてください

成功と回答した方

約 **71** %



Q. 企画の中でどんなシーンが印象に残っていますか？



Q. 準備や企画当日で何に難しさを感じましたか？



企画チームの社員さん

連携先団体・施設、学生、社員など、多方面から意見を1つにまとめること

オンライン上であらゆる準備の進捗を把握すること

オンラインと現場との温度差を少し感じた

ネット環境が原因で声が聞こえにくく現場の状況がつかみづらかった



当日参加の社員さん

準備や企画当日の「オンラインの壁」に対し、今後も引き続き解決策を探していく必要があります。

## ヤマトの皆さんからのメッセージ

どのチームも“子供たちが主体であること”を最後まで考え抜いたからこそ、想像以上の笑顔や喜びを引き出せた＝あったかい空間を創出できたのかなと思います。一方で、今企画で見つけた課題と可能性にはまだまだ伸びしろがあります。

「繋がる」から「繋げる」にシフトし、次世代のためにバトンを渡していきたいと思います。  
(企画チーム社員代表 村上りおな様)

昨年に引き続きコロナ禍の影響を受けての開催となりましたが、前回の経験を活かし、企画メンバーの誠実で柔軟な企画運営が成功に繋がったのだと思います。学生スタッフさんと青年部が交流を図りながら行う福祉活動を通じ、普段の生活ではなかなか経験できない「福祉」を身近に感じられる機会を与えて頂いたことに感謝致します。  
(ヤマト運輸労働組合 松尾 恭子様)

本事業も2年目になり、学生、ヤマト社員とも企画段階ではたくさんの気づきが得られたと同時にイベント後には大きな達成感を味わえたことと思います。また、3つのイベントとも地域の福祉事業所のみなさんに好評で、特に利用者さんが喜んでる姿を拝見できたときは、こちらもとても嬉しくなりました。この活動が大きな広がりになっていくことを期待しています。(ヤマト福祉財団 望月 広昭様)

フェリス女学院大学 伊藤菜乃

明治学院大学 徳井琴音

ヤマト運輸労働組合青年部 村上りおな

仲間と共に  
困難に挑戦し  
「軽がり」と「誇り」を  
得られる場!!

失敗が  
経験に変わる場所

一人一人の  
「個性」が  
輝く場所

## あなたにとってヤマト繋がるプロジェクトとは？

あ  
わ

ヤマト運輸労働組合青年部  
江口純子

新しい「こ・人」と出会い、関わり  
自然と笑顔になり  
相手を想うことや、次へ繋がる想い  
芽生える場

障害児者サークルラビッツ代表  
鈴木 由紀子

誰かのために  
とことん悩める場所

明治学院大学 今泉美範

全員の笑顔を生み出す  
田舎がぎざざり詰まった  
プロジェクト

フェリス女学院大学 吉野咲

主催：NPO 法人アクションポート横浜

助成：公益財団法人ヤマト福祉財団

協力：ヤマト運輸労働組合・横浜市中区地域訓練会チュールリップ・障害児者サークルラビッツ・都筑区子育て支援センター Popola・カブカブ川和（敬称略）



ヤマト繋がるプロジェクト報告書

発行年月：2023年2月

発行者：NPO 法人アクションポート横浜

執筆：今泉美範、伊藤菜乃

デザイン：清水佑香

ヤマト繋がるプロジェクト  
のホームページはこちら！



HP： <https://yamato-tsunagaru.actionport-yokohama.org>